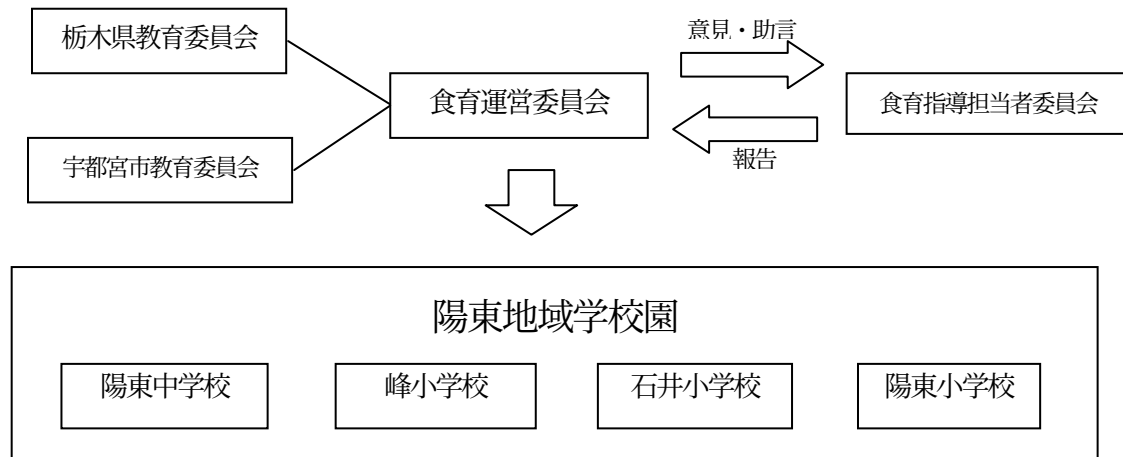


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

|       |      |
|-------|------|
| 都道府県名 | 栃木県  |
| 推進地域名 | 宇都宮市 |

## 1. 事業推進の体制



食育運営委員会：食育担当者委員会で計画した実践案について検討する。

メンバーは学識経験者、学校医代表、幼稚園代表、保育園代表、小学校保護者代表、中学校保護者代表、地区内生産者代表、地区内商店代表、地区内学校長、地区内小中一貫教育推進主任、地区内小・中学校栄養教諭、地区内代表小・中学校給食主任、地区内代表小・中学校養護教諭、県教育委員会、市教育委員会、市観光交流課長の計28名で構成している。

食育指導担当者委員会：食育の具体的な実践内容や方法について検討する。

メンバーは地区内小・中学校の栄養教諭及び学校栄養職員、給食主任、養護教諭、市教育委員会の計14名で構成している。

## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 地域学校園で取り組む小中9年間を通した食に関する指導の充実

◆ 各教科等や学校給食における食に関する指導について、小学校と中学校のつながりを円滑にするための系統的な指導方法を考え、実践した。

#### 1 小中学校9年間の系統性を考えた食に関する指導の全体計画及び年間指導計画の作成

- ⇒ 地域学校園内の3つの小学校で身に付けさせる内容が明確になり、中学校の指導への移行が円滑になるとともに、地元でとれる食材や地域の実態に合わせた効果的な指導の在り方を検討しながら実践することができた。
- ⇒ 今後、実践を進めて、さらに活用しやすいものに整えていく必要がある。

#### 2 年間指導計画をもとにした食に関する指導

##### (1) お弁当の日における事前及び事後指導

- ⇒ 地域学校園内3小学校では各学年の指導内容を同一にし、中学校の指導に円滑につながるようにした。
- ⇒ 中学生の考えた「小学生でも作れる簡単レシピ」を地域学校園内の小学校5・6年生に提供するとともに、それを活用して献立を考える授業を展開するなど、食への関心と取組への意欲を高めた。



(2) 食事マナーに関する系統的な指導の展開

⇒ 地域学校園内栄養教諭が参加し、市教育委員会で「食事マナー指導に関する手引」を作成するとともに、各校でその内容を生かした指導を実践した。

(3) 学校給食を生かした各教科等における食に関する指導の充実

- ⇒ 栄養教諭・学校栄養士・養護教諭が積極的に授業に参画した。
- ⇒ 栄養教諭・学校栄養士と養護教諭が連携した指導の実践も見られた。



給食試食会の様子

3 給食試食会と給食に関する講話の実施

⇒ 小学校6年生の保護者を対象に中学校の給食試食会と食に関する講話を行った。

【講話の内容】中学校の学校給食の目標／給食の内容／環境に配慮した給食  
地産地消の推進／栄養摂取状況／生徒の食への関心度  
食事マナーの重要性／給食の安全

4 地域学校園内統一献立による給食の提供

⇒ 地域の農産物を使用した献立や行事食を取り入れた献立などについて、地域学校園内小中学校で統一の献立を提供し、栄養教諭や学校栄養職員が分担して指導資料を作成することで、業務の効率化を図るとともに、小中学校の兄弟のいる家庭への効果的な啓発につなげた。



6月「かみかみ献立」



学級での指導の様子

【指導資料】

今日は「地産地消献立」です。宇都宮で収穫された食材を使った献立です。陽東地区の小中学校（陽東中、石井小、峰小、陽東小）では、今日は同じ献立になっています。この地域のみんで、地産地消を考えながら食事をしましょう。

陽東地区の小中学校では、平石農産物直売所のみなさんに新鮮な野菜を納めていただいています。平石農産物直売所は生産者33名が、地産地消をモットーに、いろいろな野菜を作っています。

宇都宮産の食材を紹介します。麦入りごはん（米）、のっぺい汁（里芋、大根、ねぎ）、りんごです。

作ってくださる農家のみなさんに感謝しながら、残さず食べましょう。



テーマ2 地域学校園で取り組む家庭・地域・企業と連携した食育の充実

◆ 地域学校園内小中学校で連携したり、地域内の保育園・幼稚園や生産者等と連携したりすることで、効果をあげられるような指導方法を考え、実践した。

1 お弁当の日の実施

⇒ 小中学校9年間の系統性を考えて設定した5つのコースから、学年あるいは個人でコースを選択し、地域学校園内小中学校で同日（12月1日）に実施することによって児童生徒の意欲を高めるとともに、小中9年間の連続性のある指導につなげた。

【設定コース】

- 1 ありがとうコース : お弁当の内容を家の人と話し合う。
- 2 親子でお弁当コース : 家の人が作ってくれるのを手伝う。
- 3 ひとりだちコース : 自分でおにぎりを作り、おかずをつめる。
- 4 チャレンジコース : 自分で作れるおかずの内容を考え、自分ひとりで一品以上作る。
- 5 完ぺきコース : 食品の安全や衛生についても考えながら自分だけでお弁当を作る。



お弁当の日の事前指導の様子

## 2 お弁当コンクールの実施

⇒ 地域学校園内3小学校合同で5・6年児童対象に1月6日に「お弁当コンクール」を実施し、「お弁当の日」はもとより、食への関心を高めた。

### 【審査基準】

- ・ 日常の食生活において、実践できるお弁当メニューであるか
- ・ ご飯を主食として、栄養バランスが整っているか
- ・ 地域の食材や旬の食材を活用しているか
- ・ 60分以内で完成できたか
- ・ お弁当一つ分の食材費が800円以内であるか



お弁当コンクールの様子

## 3 食育だより等を活用した啓発

⇒ 地域学校園内4小中学校合同作成の「食育だより（スイートポテト）」を発行し、保護者や地域住民へ学校での食育について啓発している。

【9月発行内容】統一献立の実施／1年生親子給食／学校給食委員会／1年生保護者試食会

【12月発行内容】統一献立の実施／親子料理教室

## 4 学校給食における地場産物活用の促進とそれを生かした食育の実施

⇒ 地域学校園内小中学校で同じ生産者組合から食材を購入し、生産者や地元食材の紹介などを共通で作成し、食に関する指導を展開した。

⇒ 4校合同で給食担当教職員が圃場見学会を実施し、生産者の思いを児童生徒や保護者に伝えた。

## 5 親子料理教室の開催

⇒ 地域学校園内4小中学校合同で11月12日（土）に料理研究家の吉野ひろみ氏を講師に迎えて「お弁当」をテーマに親子料理教室を開催した。

【献立】ごはん／鶏もも肉のなべ照り焼き／人参のきんぴら／さつま芋の桐尾煮  
春菊とハムのあえもの

【参加者】地域内3小学校の親子18組

【感想】3年児童「料理をすることがこんなに楽しいと思わなかった。」

5年児童「春菊は苦くて食べられないと思っていたが、少し工夫すると苦味がなくなることが分かって驚いた。」

5年保護者「簡単でおいしいメニューだったので、料理は工夫次第だということがよく分かった。」



親子料理教室の様子



完成したお弁当

## 6 食育講演会の開催

⇒ 宇都宮文星短期大学地域総合文化学科専任講師の鈴木いづみ氏に依頼し、2月4日に地域内4小中学校合同で開催した。

【参加者】陽東地域学校園小学校児童5・6年生及び保護者／中学校生徒及び保護者

【演題】「スポーツと栄養」

【感想】保護者「普段の生活の中で生かせる話だったので、すぐに実践します。」

生徒「今まで運動することだけを考えていたが、これからは栄養や休養についても考えたい。」



講演会の様子

## 7 給食食材の納入業者や地域内生産者、高齢者等との交流



交流給食の様子

⇒ 会食を通して、地域でお世話になっている人に対して、尊敬と感謝の気持ちを育んだ。

【招待者】一人生活の高齢者／地域協議会の皆様  
授業で昔遊びを教えてくださいました方々



## 8 幼稚園、保育園への食育の啓発や交流

⇒ 幼稚園・保育園と小学校入学時のギャップをなくすために、小学校での給食指導や食に関する指導の実際を幼稚園、保育園の指導者（教諭・保育士）に伝える機会を設けた。

（来校予定の保育園で感染症が発生したため中止）

- 【当日の内容（予定）】
- 1 栄養教諭による「陽東地域学校園の食育推進」に関する説明
  - 2 給食の様子の参観
  - 3 児童との交流給食の実施

## テーマ1～2に共通する具体的計画

### 1 食育先進校の視察

⇒ 10月11日に呉市教育委員会及び呉市立吉浦小学校、12日に広島県教育委員会を訪問した。地区内の小中学校で「植・触・食」をテーマとして進めている食育についての説明をいただいた。

⇒ 栄養教諭配置拡大と食育の充実に向け、広島県教育委員会が積極的に学校に働きかけ、明確なビジョンをもって取り組んでいることが分かった。

### 2 うつのみや食育フェアにおける啓発活動の実施

⇒ 10月2日（日）に小中一貫教育及び地域学校園で取り組む食育についてパネル展示を行うとともに、野菜のパズルを作成し、来場者に挑戦してもらうことで、多くの市民への啓発活動を行った。

【内 容】

- 1 小中一貫教育の取組に関するパネル展示
- 2 地域学校園の食育の取組に関するパネル展示
- 3 体験活動「野菜パズル」の実施



食育フェアの様子

## 数字で変化のあった事項について

### 1 食生活実態調査から見てきた傾向について

#### (1) 調査概要

【目 的】陽東地域学校園小中学校児童生徒の食生活の実態を調査することにより、9年間を見通した食に関する指導に生かす。

【調査方法】アンケート調査

【調査対象】陽東地域学校園内 小学校6年生児童  
中学校2年生生徒

<内 訳>

| (人)       | 平成22年6月 | 平成23年6月 | 平成24年1月 |
|-----------|---------|---------|---------|
| 小学校6年生 男子 | 103     | 151     | 152     |
| 小学校6年生 女子 | 114     | 123     | 127     |
| 小学校6年生 合計 | 217     | 274     | 279     |
| 中学校2年生 男子 | 122     | 104     | 115     |
| 中学校2年生 女子 | 133     | 102     | 107     |
| 中学校2年生 合計 | 255     | 206     | 222     |

※ 平成22年6月の調査は平成22年度小学校6年生と中学生2年生を対象としている。

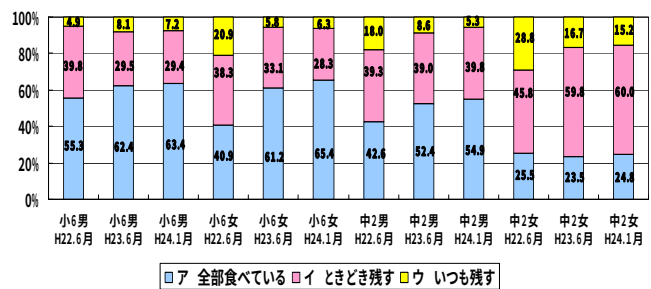
【調査時期】 第1回 平成23年 6月 7日（火）～13日（月）

第2回 平成24年 1月10日（火）～16日（月）

## (2) 調査結果と考察

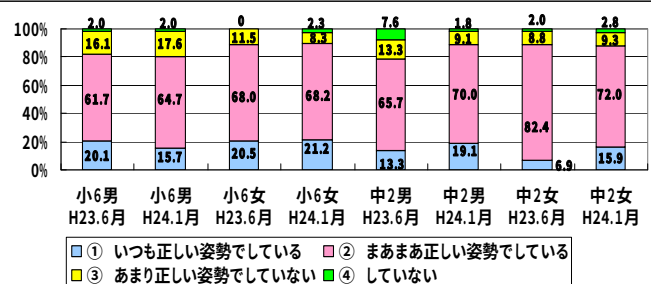
### ① あなたは学校給食でだされた食事は全部食べていますか

全調査対象において、肯定割合が増加傾向にある。成長期にある小学校高学年から中学校の時期は食欲が増進するのに加え、給食日より、毎日の校内放送、授業やお弁当の日の実施等の総合的な指導により、食に対する関心が高まり、栄養バランスがとれた給食をきちんと残さず食べようとする児童生徒が増えたものと考えられる。



### ② 正しい姿勢で食事をしていますか

中学生を中心に、肯定割合が増加傾向にある。他にも箸の持ち方でも同様の傾向が見られた。食事マナー指導について、これまでに比して、意識的に行った結果であると考えられる。今後も、意識的・重点的に指導を継続することで、さらなる向上が見られるものと考えられる。



## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・ 小中9年間を見通した年間指導計画を作成することで、地域学校園内の3つの小学校で身に付けさせる内容が明確になり、中学校の指導への移行が円滑になるとともに、地元でとれる食材や地域の実態に合わせた効果的な指導の在り方を検討しながら実践することができた。
- ・ 宇都宮市が全校で実施している「お弁当の日」において、「計画カード」と「振り返りカード」の累積と次年度での活用、中学生による「小学生でも作れるレシピ」の提供とそれを使った授業の実施など、9年間の連続性をもたせた指導の方法を提案することができた。
- ・ 「地域学校園食育だよりの発行」や「食育講演会の実施」などにおいて、地域学校園で取り組むことによって効率的かつ効果的に事業が進められることが分かった。
- ・ 地場産物の活用については、地域学校園で同一の生産者団体から産直方式で食材を購入していることを生かして、共通の教材を作成・活用することができた。
- ・ 「お弁当」をテーマにした「親子料理教室」と「お弁当コンクール」を実施するとともに、中学校では「小学生でも作れるレシピ」を作成し、小学生に提供するなど「お弁当」を中心に据えた事業を展開することで、「お弁当の日」への意欲を向上させることができた。

## 今後の課題 (今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・ 小中一貫教育の全面実施にあたって、学校給食を含めた食育において、各学校の実態や独自性を保ちつつ、中1ギャップを小さくするために地域学校園で統一していく内容や方法等について検討していく必要がある。
- ・ 地域学校園の仕組みの導入にあたって、本事業の取組内容や成果を伝えることで円滑なスタートを切れるようにするとともに、地域学校園で取り組む効果的な食育を新たに提案・周知していく必要がある。
- ・ 保育所・幼稚園と連携していくための手立てや地域内の企業・人材を生かすための手立てを考えていくとともに、すべての保護者と地域の人へのさらなる啓発を行っていく必要がある。
- ・ 宇都宮市では栄養教諭、学校栄養職員が配置されていない学校に、市費で学校栄養士業務嘱託員を配置しているが、勤務形態や経験年数等に差があるため、地域学校園として食育を組織的に進めていくためのバランスのとれた体制づくりが必要である。